横浜市立 三ツ境小学校　　令和　3　年度版　中期学校経営方針　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

学校教育目標	『つながる　続ける　創り出す』 自ら課題を見つけ、ねばり強く取り組むとともに、興味や関心を広げ、積極的に学び続けます。（知） 善悪を判断し思いやりの心と人権感覚を磨き、責任をもって行動をします。（徳） 自他の生命や体を大切にし、基本的な生活習慣を守って、健やかな体をつくります。（体） 積極的に地域社会にかかわり、社会の一員として役立つ行動ができるようにします。（公） 多様性を尊重し、様々な人々とのコミュニケーションを通して社会への視野を広げ、社会に貢献します。（開）

学校概要					
創立　65　周年	学校長　　遠山　松雄	副校長　木村　惠美子	2　学期制	一般学級：18	個別支援学級：5
児童生徒数：　601　人	主な関係校：原中学校　原小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
＜主体的・積極性＞ ＜試行錯誤する能力＞ ＜自己を理解し認める姿勢＞

中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
原中学校 原小学校 三ツ境小学校	気持ちの良い挨拶ができる人、当たり前のことが当たり前にできる人、相手のことを考えて行動する人 ・年2回の合同授業研究会を通して、ブロックイメージシートに記した資質・能力と各教科とのつながりを検証し、授業力向上を目指す。 ・大会参加児童が、水泳部、陸上部の生徒に技術指導のサポートを受けたり、中学校の合唱コンクールの優秀クラスの発表を聴いたりするなど、児童生徒間交流の充実を図る。

中期取組目標	○全職員が一丸となって、児童・保護者・地域の願いを受け止め、「まちと共にあゆむ」学校づくりを推進します。 ・一人ひとりの子どもが、学ぶ楽しさを味わうとともに、学び続けることの大切さを理解できるようにします。 ・小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携を強化し、信頼に応える学校づくりを進めます。 ・全職員が相互に啓発や連携をする活気にあふれた学校運営組織を確立していきます。

重点取組分野	担当	具体的取組
確かな学力	研究研修部	①教育活動全体を通した学習指導の充実への取組を通じて、教科等横断的な視点から児童が資質・能力を高めていくための日々の授業改善を図る。②資質・能力の三つの柱を身に付けるための指導と評価について、研修を充実させる。③GIGAスクール構想の完全実施に向けて、教師のICT指導力の向上に向けた研修や環境整備に取り組む。
豊かな心	道徳教育推進委員会	①「特別の教科　道徳」を充実させ、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。②地域の人や自然、異年齢集団との交流や体験活動を充実させ、豊かな人間関係を築いていく。（新型コロナ感染症対策を考慮した取組とする。）
健やかな体	体育・保健部	①校内研修（重点研・教育課程研・メンター研等）による、体育科の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に取り組む。②学力・学習状況調査や体力・運動能力調査等の結果から児童の実態を捉え、各種行事や一校一実践に取り組み、児童の体力向上を図る。③教師の指導料力向上や安全面の充実に向けた実技・理論研修を実施する。
児童生徒指導	児童指導部	①「三ツ境スタンダード」に沿って、全職員が共通した指導を行う。スタンダードは、年間を通して見直しを行い、実情に合わせていく。（新型コロナウイルス感染症対策について、職員間で共通理解したことを加える。）②学年・専任を含めた指導の流れを確立し、学校全体で児童の指導に携わるとともに、情報共有の方法を分かりやすくして6年間を通した引継ぎが行われるようにする。
特別支援教育	特別支援教育委員会	①指導部を中心に、特別な支援を必要とする児童のアセスメントを行い、適切な支援について検討する。また、特別支援教育支援員と連携し、困り感をもつ児童のケアの充実を図る。②ケース会議を通して支援の方法を出し合い、学級・特別支援教室・通級・個別支援学級・特別支援教育支援員それぞれで行える特別支援を行う。
地域連携	地域連携部	①地域学校活動推進員との連携を密に行い、地域と協働して学習活動内に人との関わりの場面を設定し、子どもたちの成長がまちとともに歩んで行ける学校づくりをする。②地域防災訓練を学校行事に位置づけたり、原中学校ブロックで参加する地域行事を教育課程に取り込んだりし、地域と子どもの関わりを深める計画を立てる。
安全管理	地域連携部　安全指導	①より安全な避難経路や職員の配置について見直し、避難訓練等を実際の避難に近い形で行い、緊急時に備えておく。また、引き取り訓練を原中学校ブロックで連携して行う。②見守り会の方々と協力して、児童の登下校の安全確保に努める。
	担当	
いじめへの対応	いじめ防止対策委員会	①いじめアンケート・面談を時期に合わせて実施し、児童のSOSを職員から見つけられるようにする。支援が必要な場合は、ケース会議等を行い、丁寧に対応する。②高学年を中心に教科担任制を導入したり、チームでの学年経営を心掛けたりし、複数の職員の目を通して児童の様子を見る。児童の様子について情報交換を密に行って対応を行う。
人材育成・組織運営（働き方改革）	研究研修部	① 組織の効率的な運営を図り、教務会メンバーを核とした三部会を通して職員の主体的取組を活性化させる。②校内が一丸となってお互いの学びを共有し常に学びあう環境をつくる。③これまでの働き方を見直し、より合理的に学校運営が行われるようアウトソーシングの活用や業務内容の精選を図る。